

教科（科目）	数学I	単位数	3単位	学年（コース）	1学年
使用教科書	最新 数学I（数研出版）				
副教材等	3ROUND 数学I+A（数研出版）				

1 学習目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、  
 ①数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を育てる。  
 ②数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。  
 ③更にそれらを的確に判断し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>数学における生活や学習の基盤となる基礎的・基本的な「知識・技能を身につけるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合理的・論理的に考えを進めるとともに、互いの知的なコミュニケーションを図るために重要な役割を果たす「思考・判断・表現」を伸ばすために、根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考えることや、言葉や数・式・図・表・グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えをわかりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学的活動を通して数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断するようにしている。</li> <li>自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理して、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えている。</li> </ul>

4 評価規準と評価方法

	評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の到達度を1：1：1の比重で行う。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学における生活や学習の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を身につけるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合理的・論理的に考えを進めるとともに、互いの知的なコミュニケーションを図るために重要な役割を果たす「思考・判断・表現」を伸ばすために、根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考えることや、言葉や数・式・図・表・グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えをわかりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学的活動を通して数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断するようにしている。</li> <li>自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理して、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えている。</li> </ul>
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート等の提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート等の提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート等の提出物などの内容の確認 などから評価します。

5 学習計画

月	単元名	時間	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	1章 数と式 1節 数と式	9	教科書 副教材	式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	a, b, c	授業の取り組み 提出物
5	2節 1次不等式	11	教科書 副教材	不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。	a, b, c	中間考査 授業の取り組み 提出物
6・7	2章 集合と命題	11	教科書 副教材	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	a, b, c	期末考査 授業の取り組み 提出物
9	3章 2次関数 1節 2次関数とグラフ	9	教科書 副教材	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	a, b, c	課題テスト 授業の取り組み 提出物
10	2節 2次方程式と 2次不等式	11	教科書 副教材	2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	a, b, c	中間考査 授業の取り組み 提出物
11・12	4章 図形と計量 1節 三角比	11	教科書 副教材	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	a, b, c	授業の取り組み 提出物

1	2節 正弦定理・余弦定理	5	教科書 副教材	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。	a, b, c	課題テスト 授業の取り組み 提出物
2・3	5章 データの分析	5	教科書 副教材	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。	a, b, c	学年末考査 提出物

計96時間 (55分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・各単元終了後に小テストを行う。
- ・定期考査時に、それまでの取り組みがわかるノート等の提出を課する。
- ・長期休業中の課題は別途指示する。

## 7 担当者からの一言

- ・授業を大切にしよう。授業では基本的な用語の説明と問題演習を基本として様々な活動しながら、クラス全体で学習していく。授業をおろそかにしたとき、その後一人で理解することはとても難しい。授業中に内容を理解できるよう、積極的に参加しよう。
- ・家庭学習をしよう。知識の定着・より深い理解のためには、一人で落ち着いて考える時間を家庭でとろう。
- ・計算力をつけたい。計算力は問題を解いたり、新しい概念を理解する上で欠かすことのできない力である。自分に合った問題集を購入し、毎日5分からでも継続して取り組んでもらいたい。